

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒  
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会

**本社ヶ丸－寒風に耐え大展望－**



本社ヶ丸の雄姿(鶴ヶ鳥屋山から)

12月下旬、中央線沿線の本社ヶ丸(1631m)に登った。誰がどういう基準で決めたか知らないが「秀麗富岳十二景」とかの一山である。

数日前から今冬最大の冬型気圧配置が予報され、案の定、ガンガンに晴れた空に北西風が吹き渡っていた。

7時半、笹子駅を出発、国道20号を西に歩き、追分から奥野沢に沿う林道を進む。東電の管理する立派な舗装道路である。8時40分変電所正門前で舗装道が終り登山道となる。積雪は4~5cm。雑木林の中のジグザグ登り。9時、尾根筋に出てアイゼンを着けた。後は尾根道の直登。凍てついた雪にアイゼンが軋む快適な登り。

11時10分、清八峠に到着。三ツ峠山のアンテナ群がすぐ目の前に見える。その右奥に富士山が高く大きい。しかしさすがに風が強い。主稜線を



清八峠

本社ヶ丸に向かい慎重に歩を進めるが、時折は風に飛ばされないよう、ストックとアイゼンを頼りに耐風姿勢を踏ん張る。岩稜の上り下りを何回か繰り返し11時40分、本社ヶ丸山頂に到着した。

強風のせいでモヤ一つ無い素

晴らしい眺望である。白銀の富士山、南アルプス、八ヶ岳。近くは大菩薩、滝子、百蔵、扇の山々。振り返れば御正体山はじめ道志の山々、丹沢の峰々。風に耐えての大展望の後、風陰に避難して昼食にした。風に体温を奪われた後、バーナーを焚いての熱々のラーメンは、五臓六腑に沁み渡った。



本社ヶ丸山頂

30分の大休止の後、更に主稜線を東へ鶴ヶ鳥屋山(1374m)に向かう。若干の急な下りの後は、一転してブナ林の中ののどかな尾根歩きになる。梢の上を吹き荒れる風音はするが、なかなか風情のある散歩道である。

30分の大休止の後、更に主稜線を東へ鶴ヶ鳥屋山(1374m)に向かう。若干の急な下りの後は、一転してブナ林の中ののどかな尾根歩きになる。梢の上を吹き荒れる風音はするが、なかなか風情のある散歩道である。



鶴ヶ鳥屋山(宝越から)

13時半、船橋沢への下りの分岐点・宝越に荷物をデポして、ナップザックだけで鶴ヶ鳥屋山を往復した。鶴ヶ鳥屋山14時10分。元の宝越に戻ったのが15時10分。船橋沢をせっせと下ったが、冬の日の落ちるのは早い。16時半、ようやく笹子駅にたどり着いた時はもう真っ暗だった。



山頂からの大菩薩、滝子、百蔵、扇山